

編集後記

『戦史研究年報』第15号をお届けします。

平成23(2011)年は、太平洋戦争開戦70周年、満州事変80周年、サンフランシスコ講和・日米安保条約調印60周年などの年であり、さらに世界史的には辛亥革命100周年、南北戦争150周年、日独修好150周年の年でありましたが、当防衛研究所にとりましても大きな変革の年となりました。それは、庄司戦史研究センター長の寄稿文や当防衛研究所のホームページにもあります通り、9月1日に組織の改編を実施したことです。戦史研究センターに関して具体的には、第1・第2研究室の2個研究室体制を、戦史研究室・安全保障政策史研究室・国際紛争史研究室の3個研究室体制とするとともに、図書館所属の史料室を戦史研究センター所属とし、また、戦史部の名称も戦史研究センターと変更しました。

以上を踏まえ、本号では、外交史研究の世界的な権威である入江昭先生(ハーヴァード大学名誉教授)に、「現代史の中の戦史」と題した論稿を、特別に寄稿いただきました。

巻頭の「史料紹介」では、研究論文関連史料の写真の他に、大正12年に生じた関東大震災における旧軍の活動に関する史料を掲載しました。

「論文」は、戦史研究センター所属研究者による平成22年度調査研究成果の中から、3篇を掲載しました。石崎・齋藤・石丸論文は、これまであまり光の当てられていなかった旧軍の退役軍人支援施策に関する史的検証を行った画期的な論考です。進藤論文は、太平洋戦争における対日戦争指導について、アメリカ側から見た研究成果の代表例を取り上げて、その内容や特徴を検討したもので、今後の研究の指針ともなる有益な論文となっています。由良論文は、太平洋戦争における航空戦において、従前の陸海軍における航空運用理論・ドクトリンの実戦への適用の可否を検証し、また今日的意義も見据えた考察です。

「研究会記録」は、平成23年2月にイスラエル・テルアビブ大学政治科学学部教授のアザー・ガット博士が実施いたしました研究会「文明の発展と戦争」の記録を掲載しました。

「国際会議参加報告」は、ブラジル・リオデジャネイロで開催されました第37回国際軍事史学会大会の概要及び同大会で花田教官が発表した論文(英語)を掲載いたしました。

「活動報告」は、平成23年に戦史部が実施した諸活動、史料閲覧室の閲覧状況などを掲載いたしました。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

(大八木 敦裕)